



テュートリアル課題 林檎園から

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2014
号	S6
発行年	2014-09-09
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032345

2014年度 Segment. 6

課 題 No.2

課題名：林檎園から

課題作成者：精神医学
神経内科学
画像診断学・核医学

澤村 実紀
北川 一夫
坂井 修二



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となる場合がありますのでご注意ください。

シート1

松林 竹子（まつばやし たけこ）さんは、林檎を愛する73歳の女性です。もともと元気で活発な性格で、無農薬林檎園もほとんど一人で切り盛りし、70歳を間近にしたころにそれを長男に譲りました。今は、孫の花子（はなこ）さんにあてて花や果物の絵で絵手紙を描いたり、趣味の散歩とスケッチなどをして、のんびりと毎日を送っています。絵手紙を描くときには、林檎園の四季の美しさを思い出し、筆が進みます。散歩も、林檎園を無心に歩いていれば、心身ともに寛いで、いやなことも忘れます。

素敵な林檎の木をみつけたため、少しスケッチでもしてみようと思ったところで、
「あれ・・・? なにかを忘れている・・・、あら、色鉛筆はどこにやったかしら・・・!? それと・・・画用紙ももってきてなかったわね・・・」
ふと、いつも必要でもっているはずの持ち物を、今日もってきていないことに気づきました。最初は何をもってきて忘れたかさえ思い出せませんでした。このところ松林竹子さんは物忘れが多くなっています。そういえば、2～3年前から、家族から注意をされることが増えたようです。

シート2

物忘れが続き、松林さんはちょっと心配になり、病院に行くことにしました。

病院ではまず、面接を受け、お酒を多く飲んでいないか、頭をぶつけるようなことはなかったか、などいくつかの質問をされました。いずれも心当たりはありませんでした。

松林さんは、区民健康診断では、採血、心電図、血圧測定などを受けて、いつも問題なしといわれていたの
で、そのことも医師に話しました。

シート3

医師の診察時の神経学的所見にはとくに異常は認めませんでした。「検査をしましょう。まずはいくつか質問をさせてください。随分ばかばかしい質問も混じっていますが、物忘れの検査のためなのでお願いします」医師はこう断って、松林さんに、質問形式の検査をしました。

「頭の写真を撮る検査もやっておきましょう」医師は、松林さんに、頭部MRI検査と脳血流SPECT検査を予約しました。

シート4

松林さんは検査の結果説明を受け、担当医師から「アルツハイマー型認知症」と病名を告げられました。そして、この後の治療と、生活上のアドバイスや福祉制度について聞きました。水泳も、林檎園での散歩や四季の絵手紙を描くのも、よいことだと、医師は話してくれました。

シート5

今日は孫の花子（はなこ）さんに車椅子を押されて近くの公園に来ました。広い公園の木立のなかに車椅子をとめて木漏れ日を浴びていると、まるで林檎園の中にいるようです。「おやつにしよう。すりおろし、作ってきたの」花子さんはすりおろし林檎を少しスプーンにのせて、松林さんの口に含ませました。松林さんは、ふと体を動かし、いつもよりも目を見開き、そしてまた目を閉じて、ゆったりと微笑みました。

「おばあちゃん、やっぱり、覚えているのね、うちの林檎」花子さんが松林さんに言いました。

「林檎は、育てるひとのこころ次第で、みんな違った香りと味わいになるって、おばあちゃん、言っていたよね」

松林さんはまたちょっと微笑んでいるようでした。